

2030~2035

SA-1

県内の過疎地域では、ドローンやロボットを活用した生活支援が当たり前になり、そのノウハウを生かして災害に対しても、スムーズな遠隔支援が実施される

概要

鳥取県内の過疎地域では、住民の買物支援や住居インフラのメンテナンスの為にドローン輸送やロボット作業が導入され、県内他地域からの遠隔支援が日常化していく。その結果、鳥取県内では独自に、遠隔作業支援のノウハウが蓄積していき、日本全体で災害が発生していく中で、他県での災害に対し、蓄積されたノウハウを基に遠隔作業での支援を鳥取県がリードしていく。

また、鳥取県内における災害に対しても、遠隔作業による支援の受け入れ体制が整っていることで、県内他地域のみならず、他県からもスムーズに支援を受入れることができ、迅速な災害復旧が実現する。

変化のポイント(商品・サービス/価値観・行動/業界/などの変化)

いままでは

リアルな現場での人力での災害支援のみ



これからは

県内での遠隔作業が日常化し、災害時は県内外が相互に遠隔作業支援する体制ができる

2040~2045

SA-2

バスやタクシーは移動に加え、地域住民の交流や文化芸術の表現活動など幅広い目的の多機能型サードプレイスの役割を果たす

概要

自動運転の普及により、現在よりも車両内のスペースが広く確保できることに加え、乗務員は運転業務から解放され、運転業務以外の新たな役割を担う。余白が生まれたバスやタクシーの車内がライブハウス、映画館、公民館、病院などあらゆる用途で活用可能となることで、移動を目的としたユーザーのみでなく、バスやタクシーに乗車すること自体を目的としたユーザーも乗車するようになる。これにより、バスやタクシーに人が集まるようになり、地域の情報も自動的に集約されるようになるとともに、公共交通を起点とした多世代間での交流が一般的となる。

変化のポイント(商品・サービス/価値観・行動/業界/などの変化)

いままでは

自家用車が普及している中で、バスやタクシーを利用しない
地域の情報を手軽に収集できる手段が少ない



これからは

公共交通が双方向型のコミュニケーション拠点となる

2040~2045

SA-3

利用者の潜在的なニーズと、店舗・施設のメニューにはない隠れたサービスなどの精緻なマッチングが行われるようになる

概要

鳥取県のように店舗、施設の少ない地域では個人経営の店舗が多く、メニューには載せてないこだわりの逸品や隠れたサービス（ex.保育士資格を持った店員が子供の相手をしてくれる商店等）のある店舗が多い。今までは口コミでしかそのような情報は共有されてこなかったが、AIによる情報収集精度の向上により地域の店舗情報がストックされるとともに、利用者側の潜在的なニーズに踏まえて、それらの情報がピンポイントで利用者に提供される。

変化のポイント(商品・サービス/価値観・行動/業界/などの変化)

いままでは

鳥取県は、お店の数が少なく、詳細な情報を探すのにも一苦労



これからは

鳥取県は、顧客が求めている言語化していないサービスにリーチでき、店舗数に比してバリエーションは豊かな地域として認知

2030~2035

SA-4

AIとの会話やライフログ（※）のセンシングで、家庭・地域の状況(幸福度・トラブル)がわかり、迅速な共有や対応が行われるようになる

概要

日常会話や行動など生活上のあらゆるライフログを収集する（＝センシング）デバイスが開発され、各家庭で収集した情報を基に必要な情報を整理して提供してくれる。
また、日常生活において支援が必要であると思しき問題（ストックがあるのに同じものを繰り返し購入する、同じ内容の話を繰り返すなど）を検知すると、行政機関や医療機関等に情報が自動的に発信され、事態が深刻化する前に支援の手が入る。
さらに、普段から住民の気軽な会話相手になり、近所の人には相談しにくい困ったことが起きた場合も、デバイスを通じて適切な機関からの回答を得ることができる。

※人間の生活・行い・体験を、映像・音声・位置情報などのデジタルデータとして記録すること

変化のポイント(商品・サービス/価値観・行動/業界/などの変化)

いままでは

助けを自ら求めないと支援を受けることが難しい



これからは

細やかに支援の手が自然と入るようになり、安心が広がる

2035~2040

SA-5

ライフログ（※）活用により、子どもと高齢者など異なる世代間での出会いや相互見守りが創出され、ゆるやかな関係構築と役割に応じた報酬が得られるようになる

概要

学びの方法が多様化する中で、学校での学びと社会での学びの境目が薄れ、さらに生産年齢人口の減少に伴い、子どもも学習活動の一環として社会で一定の役割を果たす機会が多くなる。AIによるマッチング等を活用した見守りサービスが充実することにより、子どものみで留守番している家庭の見守りが地域の高齢者によって行われるようになるとともに、子どもたちも地域の高齢者の手伝いや話し相手といった役割を持つことで、子どもと高齢者相互の見守りが実現する。また、地域の子どもたちによって高齢者の行動や生活の記録（ライフログ）の取得が進むことで、ライフログは孤独死や防犯対策などの高齢者に関する問題解決にも活用され、地域内に高齢の親を持つ県外在住の人から地域の子供たちへ対価が支払われるビジネスへと展開していく。

※人間の生活・行い・体験を、映像・音声・位置情報などのデジタルデータとして記録すること

変化のポイント(商品・サービス/価値観・行動/業界/などの変化)

いままでは

地域内の接点が少なく、孤独を感じる子どもや高齢者が存在している



これからは

ライフログを活用し相互に見守りが実現、ビジネスへと展開する

2040 ~ 2050

SA-6

感覚が共有できる技術により、災害時だけでなく平時でもタイムリーに意思疎通し、障がいの有無や子ども・高齢者などを問わず平等に安心が担保される

概要

感覚共有技術によって、五感が共有できるようになることで、災害発生時に視覚や聴覚を共有でき、高齢者や身体障がいのある方にも適切かつ迅速な情報発信、避難指示が可能となる。地震や豪雪などによって家屋の倒壊に巻き込まれてしまった場合には、被災者自らが感覚共有を行うことで、自身の状況や被災場所を周囲の人に伝えることができ、迅速な救助につながる。

また、平時においても、子どもや高齢者、障がいのある方がこの技術を活用して自らの感覚を発信することでよりスムーズな意思疎通を図ることができるなど、県民皆が安心して暮らせる鳥取県となる。

変化のポイント(商品・サービス/価値観・行動/業界/などの変化)

いままでは

災害時において、意思疎通が難しい人は避難が困難



これからは

災害時の意思疎通が、感覚共有により誰でも容易になる

2040~ 2045

SA-7

誰もが所有する自分専用の肩乗りAIが、能力や知識を十分に発揮するためのきっかけづくりをし、自己実現をサポートする

概要

AIがより高度化・一般化することで、すべての人が自分専属のAIを所有するようになる。専属AIは、所有者の身体的状況や行動、感情等のデータをすべて把握・分析することにより、所有者に対して最適な行動提案や潜在的なニーズの提示を行うことができる。また、常に肩に乗せて行動することで、気軽に相談や雑談ができるなど、新たな家族のような存在となる。

専属AIがいることによって、「地域のために活動をしたい」、「鳥取県で起業したい」といった所有者の潜在的な自己実現欲求が掘り起こされ、専属AIの知識やデータも借りることで、多方面で活躍する人材が増加する。

変化のポイント(商品・サービス/価値観・行動/業界/などの変化)

いままでは

生まれた環境や能力によって、本当にやりたいことへの一歩を踏み出すことが難しい



これからは

生まれた環境や能力に関係なく、やりたいことを積極的に行うことができる

2040 ~ 2050

SA-8

思考を他者と共有できる技術が進展し、価値観の合う人や助けを必要としている人と繋がることができ、自分が活躍できるコミュニティには自然に参加できる

概要

思考共有技術によって、言葉以外の方法でもコミュニケーションが取れるようになり、自分と価値観が合う人やコミュニティとつながることができるようになる。
また、サポートが必要な人の思考もキャッチできるようになり、共助のまちづくりにつながる。
加えて、言葉で伝えることが苦手な人でも、自分が得意なことや経験などを思考共有技術によって発信することにより、自分が活躍できるコミュニティに参加し易くなることで、自分の役割、価値をより強く感じることができ、地域活性化にも貢献できる幸福度の高い社会となる。

変化のポイント(商品・サービス/価値観・行動/業界/などの変化)

いままでは

大きなキッカケがないとコミュニティには属さない



これからは

小さなキッカケからコミュニティに参加することができるようになる